小売業者における花き産地の評価							
［要約］三重県内および名古屋市内の園芸店・生花店における花き（鉢もの・花壇用苗もの）の評価基準と重要度についてＡＨＰの計算を利用した一対比較法を用い分析した。その結果、「品質の良さ」が最も重視され、その傾向は園芸店、生花店の規模別においてもほぼ同様の傾向を示している。							
三重県科学技術振興センター　農業技術センター 経営部・経営担当					連絡先	05984-2-6356	
部会名	経　　営	専　門	経　営	対　象	花　き	分類	指導

［背景・ねらい］

花き生産は近年の景気後退・低迷の影響を受け消費が伸び悩んでいるとともに、花きに対するニーズが変化してきていると考えられる。そこで、鉢もの・花壇用苗ものについて消費者のニーズに直接影響を受ける小売店（三重県内の生花店、園芸店および名古屋市内の園芸店）の花き仕入れ時の評価基準重要度をＡＨＰの計算を利用した一対比較法により分析し、今後の花き産地の対応方向を検討する。

［成果の内容・特徴］

１園芸店、生花店ともに第２レベルの重要度では「品質の良さ」、「価格」、「仕入れ数量」の順となり、いずれの項目においても園芸店と生花店との重要度の差は少ない。また、第３レベルでみると、園芸店は「傷み･病虫害がない」、「値ごろ感がある」、「新鮮･花もちが良い」、「継続･安定した仕入れができる」等の項目を重視しているが、生花店は「値ごろ感」を重視している（図１）。

２小売店を年間花き取扱高（小規模：２千万円未満、中規模：２千万円以上１億円未満、大規模：１億円以上）で分類すると、園芸店では大規模園芸店の第３レベル項目の「傷み･病虫害」、「値ごろ感」の重要度が高くなっている（図２）。また、生花店では小規模生花店が第２レベルの「価格」を重要視しており、第３レベルでは小規模生花店、大規模生花店が「値ごろ感」を重要視している（図３）。

３今後の方向性の調査では、園芸店は花壇用苗ものの取り扱いを、生花店は鉢ものの取り扱いを重視しているとともに、小規模園芸店、中規模園芸店は市場経由の仕入れ、大規模園芸店は産地契約（農家から直接）の仕入れを重視している。

４以上のことから、花き生産者は「品質」の高い花きを生産することを目指さなければならないが、同時に「値ごろ感」が創出されるような生産も必要であろう。また、「継続・安定性のある」生産を目指すことも重要となってくる。

［成果の活用面・留意点］

三重県内・名古屋市内の花き小売店を対象としたものであり、今後他地域の調査を行い地域特性なども検討する必要がある。

［具体的データ］

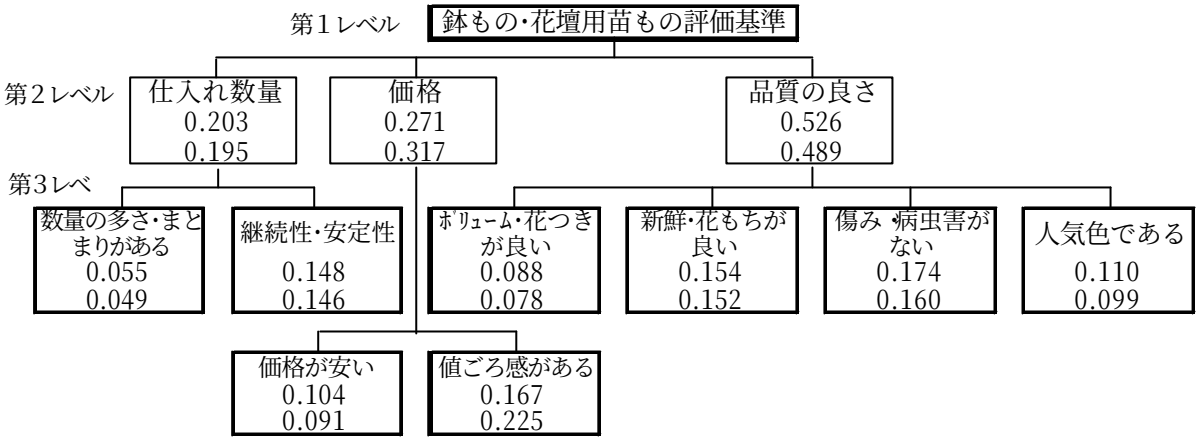

図１ AHPによる小売業者における鉢もの･花壇用苗ものの評価基準と重要度
（上段：園芸店、下段：生花店）

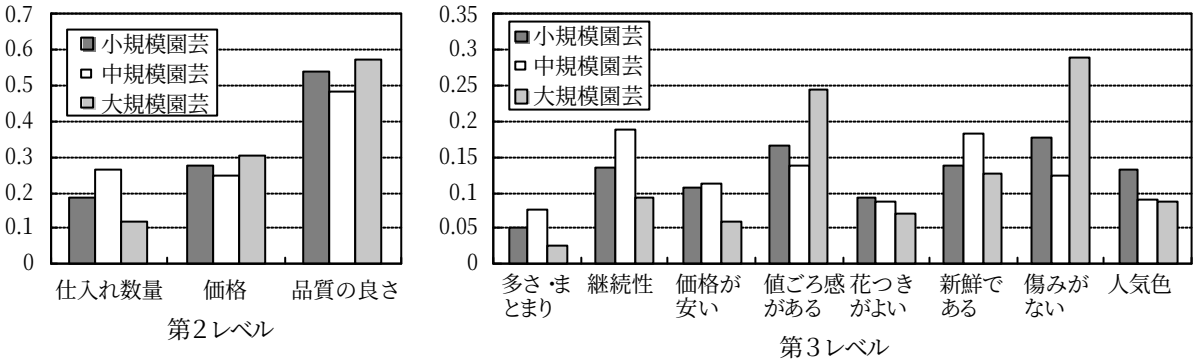

図２ 規模別園芸店における鉢もの･花壇用苗ものの評価基準と重要度

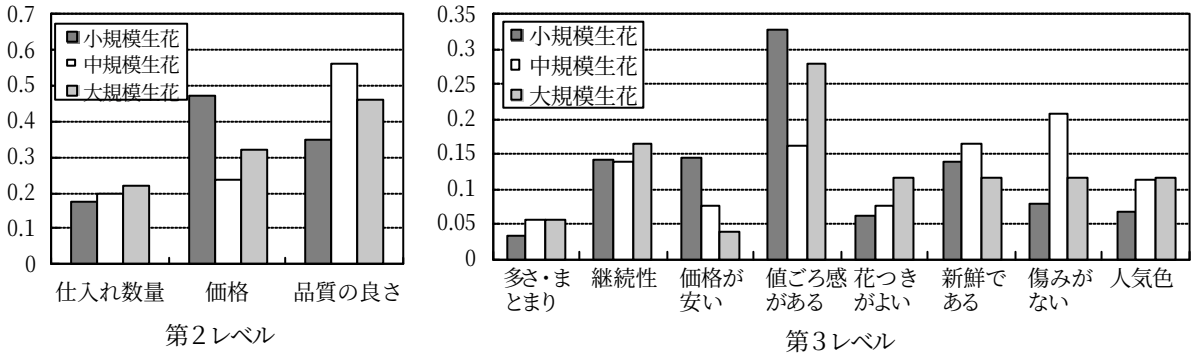

図３ 規模別生花店における鉢もの･花壇用苗ものの評価基準と重要度

*) 三重県内と名古屋市内の園芸店および三重県内の生花店にアンケートを郵送したところ、それぞれ82社（26.1%）、61社（28.8%）から回答が得られ、整合度、整合比が0.15以上の回答を除くとそれぞれ20社（6.4%）、12社（5.7%）であった。

［その他］

研究課題名：花き消費動向と市場大型化による流通変化への産地対応

予 算 区 分：県単

研 究 期 間：平成10年度（平成９年～11年）

研究担当者：木村友香、大泉賢吾